

「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」立ち上げにあたり

平成21年1月20日

少子化対策担当大臣

小渕 優子

ゼロから考える少子化対策

プロジェクトチーム

安藤 哲也

勝間 和代

松田 茂樹

宮島 香澄

佐藤 博樹

私がこのプロジェクト（以下PT）を立ち上げようという思いに至ったのは、子育てに関する多くの「なぜ？」に出会ったからに他なりません。私自身の体験や周囲の友人の声ばかりでなく、少子化対策担当大臣というお役目をいただき、さらに多くの方々のお話をお伺いする中でその「なぜ？」は私の中で拡大するばかりでした。

－なぜ、こんなに不安を感じながら出産・子育てをしなくてはならないのだろう。

－なぜ、一人で働きながら、子供を育てることがこんなにも大変な社会なんだろう。

－なぜ、結婚もしたい、子どもも産みたいという当たり前の希望がなかなかかなえられないのだろう。

私がお話した方の一人は、「子育てが辛い」と言って涙しました。もちろん子育てには大変な面もありますが、子の笑顔に触れ、その成長を喜び、親である私たち自身も学び、お互いに感謝や愛情を紡いでいくものがその日常だと思えます。しかし、今この国は、子育てそのものを自身の喜びとして素直に受け止めることがなかなかできない状況にあるのではないのでしょうか。

そのようなことを強く感じ始めた時がまさに5年に一度の「少子化対策大綱」の見直しの時期でした。日本にとって、これからの5年はこれまでの5年とはまったく意味の違う時間になると思います。子育て支援も含めた社会保障のあり方をめぐる議論も今後かなり活発化してゆきます。少子化に目を転じると、第2次ベビーブームに生まれた世代が40代を迎える時期でもあります。

私は、強い危機感を覚えました。もっと少子化について国民のみなさまと共通の理解を得て、改めて将来のあるべき姿を示していかななくては、本当に手遅れになってしまうのではないかと。私自身は少子化問題は、子供を持ちたいと思っている皆さんや、産み育てることに直面している方々だけでなく、世代を超えて日本に暮らす誰もが「今自分自身に何

ができるか」を考えていかななくてはならない問題と強く考えています。

大臣になった時、私は「みなさまと共に悩み、共に歩む大臣でありたい」と述べました。このPTも様々なことに悩み考え、一緒に答えを見つけていくプロセスを国民のみなさまと共有したいと考えています。集まっていた委員の皆さんには私のこの問題意識を理解していただき、同じ危機感を共有しています。

私たちの思いと覚悟をどうかご理解頂き、子どもたちの笑顔のあふれる日本の未来を築いていけるよう、皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。